

文部省選定
優秀映画鑑賞会推薦

民俗芸能の心

おとこ

若衆たちの心意気

——烏山の山あげ祭り——





山あげ祭りの日程：

1月第3日曜	全町若衆世話人会議	25日	出御 天王立て奉納
6月第1日曜	山つくり始	25日	山あげ
7月1日	お注連立て 山あげ奉告祭(ぶっつけ)	27日	渡御
15日	役割発表	27日	還御
17日	会所びらき		笠抜き
19日	屋台組立て	28日	直会、お日待
24日	笠揃え		

若者たちの汗と熱気の饗宴が……

栃木県那須郡烏山町は、宇都宮から東へ約1時間(32キロ)、人口2万余、那河川の流れに沿った永い歴史と文化を育ぐんできた城下町である。

ここ烏山の山あげ祭りは毎年7月に行われる。山あげ祭りとは、烏山八雲神社の祭神の訪れを、氏子がヤマを作って奉迎する信仰的な行事。組立式舞台を曳いて巡幸し、訪問する町までくると一挙に舞台と装置を組み上げ、そこで狂言を演じる。この道路を利用した舞台空間は約100メートルにまでおよぶ雄大なものである。

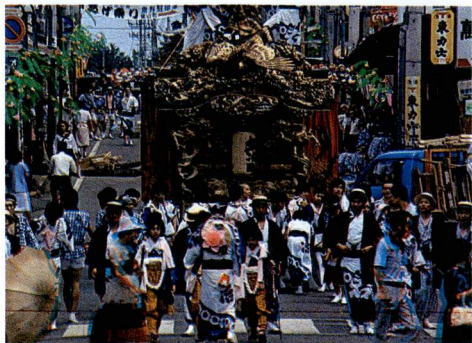
この祭りは、町の若者たちの情熱と果敢な行動力によって支えられる。それは若衆世話人会で認められた「木頭^{きがしら}」と呼ばれる若者を中心に、町の全ての若衆たちによって祭りが進行するのである。まず3月頃、蔵から出された前回の「山」を前に今年のアイデアをひねることから行動が開始される。アイデアが決まると5月末頃から竹の骨組と烏山和紙で山が作られる。山づくりは全て若衆たちの手仕事である。空きの時間は祭りの仕事、声をかけることもなく集って山の仕上げにかかる。一方で狂言の稽古も始まる。

そしていよいよ祭りの当日。若衆たちは山を満載した山車を曳いて激しく走る。そして各町で山をあげる。その全ての指揮は木頭がとる。町には熱い若者の息吹きがあふれ、静かな町にこだまする。さわやかな汗と熱気の饗宴である。若衆は祭りでは裏方、だが彼らの心はここに見事に一致した。半年に及ぶ時間と努力がここに実を結んだのである。

木頭は思った。「ここには俺たちが創り上げた世界がある。400年をこす俺たちのきづながある。この祭りは、俺たち若衆の心意気。俺たちのものなんだ。俺たちが伝えていかなければ………!」

宮座の組織





作品名：シリーズ〈民俗芸能の心〉

若衆たちの心意気

——烏山の山あげ祭り——

(35mm/カラー34分)

企画：(財)ポーラ伝統文化振興財団

製作協力：(株)読売映画社

監修：高橋秀雄

製作スタッフ

製作 ● 樋口幹夫

脚本・監督 ● 曾田 信

撮影 ● 大山照夫

● 打矢勇二

音楽 ● 佐藤日出夫

照明 ● 小林 宗

編集 ● 梶田敏子

ナレーター ● 伊藤惣一

録音 ● 川端敏彦

協力

文化庁文化財保護部

栃木県那須郡烏山町

八雲神社山あげ祭保存会

鍛冶町若衆

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 **ポーラ伝統文化振興財団**

<http://www.polaculture.or.jp>

〒141-0031 東京都品川区西五反田2-2-10 ポーラ第2五反田ビル
TEL 03-3494-7653 FAX 03-3494-7597